

## 池田潔著「自由と規律」という本を読んで学んでいただきたい

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴き頂、ありがとうございます。10月の28日と29日の2日間、東京で第30回日本ASEAN経営者会議がありました。ASEANの国々から65名、日本から60数名の方が参加し、私もその一人として参加させて頂きました。どのようなことが話し合われたかということ、ASEANにはシンガポールやタイなど10か国ありますが、そのASEANの国々と日本との間でできるだけ自由に人の移動やお金の移動、物資の移動を推進しようと、できれば経済連携というものをもっともっと強めていこうということを話し合いました。

代表者である経済同友会の北城代表幹事が、29日に会議の結果を持って小泉首相に要請に行きました。町村外務大臣がご挨拶にお見えになっていましたが、町村さんは疲れきってしまいましたね。なぜかということ、イラクに日本人の方が出かけていって拘束され、あと何時間以内に大変なことになるという時だったからです。最終的には日曜日に亡くなってしまったようですが、そその解決のために夜も寝ないで対策に奔走なされておられました。そのお忙しい中に来て頂いてお話を伺いました。今回のイラクの事件についてですが、殺人を犯したわけですから、一番悪いのは犯罪を犯した人つまりテロをやった人です。これは当たり前のことです。一方で、日本人として考えなければいけないことは、そういう危ない場所に行けば危ないことがあるということをよく自覚して行動した方がよいということです。日本を出たら、一人の方を外務省や国を挙げて救出をしたりその他いろいろなことをするわけですから、官民挙げての救出対策の対象にならないように、その手前で自分自身を律して危ないところには行かない、皆に迷惑をかけないようにすることが大事だと思います。犯罪を犯した人が一番悪いのは当然のことですが、被害者にならないということも大事なことなので、くれぐれも危険な地域にはお近づきにならないようによろしくお願いしたいと思います。被害者の家族の方にはお見舞申し上げます。そのような観点も大事ですので教訓としてよく覚えておいて頂きたいと思います。

今日は、先週に引き続き本の紹介をさせて頂きます。「自由と規律」という本です。これは、岩波新書で池田潔さんという方が書かれたもので、イギリスの学校生活について書いてあります。これは、昭和24年に出された本で、去年までに87回も印刷されて読まれ続けています。有名な本ですので、皆さんの中にも読んだ方がいらっしゃるかと思います。開倫塾は、10月31日で創立25周年を迎えました。これを記念して、40数か所ある校舎に毎月1冊ずつ本を置かせて頂き、塾生および保護者、地域社会、先生、職員、事務職員の方々に読んで頂きたいと考えました。どんな本がよいかとずっと考えていましたが、1冊目として「自由と規律」にしましたので、皆さんにもご紹介させて頂きます。

教育を考えるうえで大事なことは、自由だと思います。心の中が自由であることです。ただし、その自由の前提には規則というか規律を守らなければならないということがあります。自由は本当に大事だと思います。正しい判断を下すには勇気が要ります。また、不利な判断を下されて、それに対して正式に申し入れるということもあると思います。自由には、行動の自由、精神の自由とたくさんありますが、

その前提には自由を裏付ける規律が必要です。自由と放縦(わがまま)とは見境がないように思いますが、自由の前提には規律が必要だということです。

では、どこで規律を勉強するかというと、昔の話ですが、イギリスではパブリックスクールという所で訓練されていたようです。イギリスの何十年か前の方々は、社会を出てから大らかな自由を共有する以前に規律を身に付けるという訓練を与えられたと言われていています。それが、この岩波新書の「自由と規律」に書いてあります。

規律を身に付けるということを学校時代にしておくことが大事です。一番よい規律の身に付け方はスポーツで、特に団体競技です。イギリスの方はあまり個人競技を好まないようですが、ホッケーやラグビーなどの団体競技を通じて自由や規律、特に規律を身に付けるということです。個人的な利害や肉体の苦痛を犠牲にして己の属するチーム全体の利益に奉仕することが運動競技の真の精神という考えのもと、四季を通じて規則正しくいろいろな競技をしているようです。共同体にあっては、全体の利益のために自我を没し、勝って奢らず、負けて悪びれず、敵を重んじ、いやしくも不当の事情によって得た不利益な立場によって勝敗を争うことはしない。このようなチーム全体の利害によって行動すべきというスポーツマンシップを習得することが大事であること、それが自由の前提である規律を身に付けるイギリスの方法であるということ、池田潔さんの「自由と規律」という岩波新書の本で学ぶことができます。皆さんもぜひこの本を読んで、自由とは何か、その前提となる規律とは何かについてお考え頂ければと思います。とてもよい勉強になりますので、よろしくお願いします。